

平成21年度環境技術実証事業

山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第1回） 議事要旨

日時	平成21年6月18日（木）14:00～16:10
場所	青山生涯学習館3Fレクリエーションホール
出席者 （敬称略）	検討員：相野谷誠志、井田忠夫、河村清史、桜井敏郎、穂苅康治、森武昭（座長） 環境省：夏井智毅、勝田孝、西村学、田畑克彦 実証機関：森田昭（（財）日本環境衛生センター） 事務局：上幸雄、加藤篤、永原龍典
議事	（1）平成21年度実証技術について（非公開） （2）平成21年度の検討内容・スケジュール（案）について （3）分野名称及び実証ロゴマークの活用法の検討（案）について （4）その他
配付資料	資料1：実証技術資料及び試験計画（財団法人日本環境衛生センター）非公開 資料2：平成21年度の検討内容・スケジュール（案）について 資料3：分野名称及び実証ロゴマークの活用法の検討（案）について 参考資料1：平成21年度環境技術実証事業実施要領 参考資料2：山岳トイレ技術分野実証試験要領（第6版）
公開／非公開	議事1は非公開で行なわれた

（1）平成21年度実証技術について（非公開）

実証機関である（財）日本環境衛生センターより資料1に基づき、実証技術の概要及び実証試験計画について説明があり、本実証試験計画は了承された。

（2）平成21年度の検討内容・スケジュール（案）について

事務局より資料2に基づき、今年度の検討事項について説明。各検討項目の概要は次の通り。

○山岳トイレ技術セミナーについて

事務局より資料2に基づき、昨年度と同様の内容で、仙台市を開催地する旨を説明。

検討員より仙台市での開催する意図について確認があり、事務局より東北地方の山域には、避難小屋が多くあり、トイレが未整備な箇所も多いことから、山岳トイレ技術を普及させていくことで一層の環境保全が図られることが期待できると回答。

○メンテナンスマニュアルに関する実証項目の検討について

事務局より、実証試験要領 P23 の実証項目を充実させ、ユーザーにマニュアルに関する

る適切な情報を提供したい旨を説明。検討委員より、マニュアルの事例を収集するとともに、今年度の実証試験をケーススタディーとしながら検討を進めていくべきとの指摘があった。

(3) 分野名称及び実証ロゴマークの活用法の検討（案）について

事務局より資料3に基づき、山岳トイレ技術分野の名称変更の趣旨及びE T Vロゴマークの各分野自由枠への記載内容について説明があった。事務局案に対し、以下の意見が出たので、これらの意見を参考に、次回WGまでに事務局案を再検討し、11月の環境技術実証事業検討会に報告することで了承された。

(主な意見)

○分野名称の変更について

- ISO の環境ラベルでは「環境にやさしい」という曖昧な表現は使えず、具体的に表記することが求められている。
- キーワードを何にするのかをまずは検討することが大事である。
- 「自然環境地域」というと、「自然公園区域」という規制エリアを指す表現と似ているため、紛らわしい。

○ロゴマークについて

- 性能維持の観点から経年実証試験を実施する山岳トイレ分野としては、今回のロゴマーク改正を機に、経年実証試験に参加したメリットを与えることが重要である。
- ロゴマークには有効期限がない。取得年度を明記することで、実証年度が古いものと区別することができ、経年実証試験への参加メリットに繋がるのではないか。
- 自然公園等に適したものであるなど、どのような現場で使えるものであるかを示すことも大事である。
- 分野名称を活かして検討していくことも必要である。